

どのような症状がでますか？

この病気に特徴的な症状はなく、全く何も症状がない患者さんから、食欲不振・倦怠感・黄疸といった急性の肝炎の様な症状が出る場合など様々です。健康診断などで偶然発見されるケースもあります。病気の進行状況によっては、むくみ、腹満（腹水）など肝硬変に伴う症状がみられることもあります。

どのような治療法がありますか？

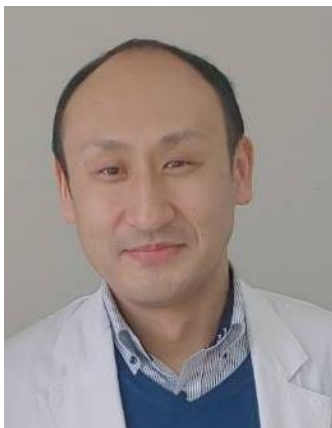
治療では免疫抑制剤、特に副腎皮質ステロイド（主にプレドニゾロン）が著しい効果を発揮します。現時点では根治することはできない病気ですが、ステロイドなどで治療をきちんと行えば、自己免疫性肝炎の経過は概ね良好であり、生存期間は健康な人と差がありません。ステロイドや免疫抑制剤などが効きにくい患者さんも、まれですがおられます。できれば肝臓専門医のもとで治療をうけていただき、AST、ALTを基準値内に維持することが重要です。

最後に

自己免疫性肝炎は、厚生労働省が定める難病に指定されています（難病情報センター <https://www.nanbyou.or.jp>）。また、厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班（<http://www.hepatobiliary.jp>）において、さまざまな研究が行われています。患者さん・ご家族のためのガイドブックも作成されており、病気の解説や日常生活での留意点などが分かりやすく記載されています。ぜひご活用ください。

《著者紹介》

荒瀬 吉孝（あらせ よしたか）



東海大学医学部消化器内科 講師

1980年生 群馬県出身

2006年 東海大学医学部卒

日本内科学会 総合内科専門医、指導医

日本消化器病学会 専門医、指導医、関東支部評議員

日本肝臓学会 専門医、指導医、東部会評議員

日本消化器内視鏡学会 専門医、指導医

日本門脈圧亢進症学会 評議員、技術認定医（内視鏡的治療領域）

厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 研究協力者

